令和4年度　大田区立大森東中学校　自己評価　報告書

令和5年1月21日

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	○生徒、保護者、教職員アンケートによるコミュニケーションや社会の変化に対応する力に関連する項目での、肯定的な回答の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	4	・コロナ禍を踏まえ、ALT活用では「英語カフェ」等を工夫し、身近に英語に触れさせる取組を行った。 ・ICT機器をほとんど全員の教員が活用して「分かる授業」を目指して取り組んでいる。また、リモート学習を含めたタブレットの効果的な活用に関する研修会を実施している。更に、今年度の校内研修のテーマを「ICTを活用した指導方法の工夫」とし、年3回の研究授業を実施した。 ・人権教育をも含めた「居心地のよい学校」を掲げ、生徒生命尊重週間において、全校で人権にかかわる道徳授業を実施した。 ・「セーフティ教室」は土曜授業に合わせ、SNSや薬物乱用防止について行い、保護者の参観も図った。発達段階に応じて、各学年毎に専門機関から講師を招聘して、生徒への啓発を行った。 ・体力向上を目指し、保健体育では毎授業開始の5分を補強運動にあてた。また「一校一取組」運動として、伝統あるマラソン大会を位置づけ、今年度も実施した。	A	6	●道徳・ICT等、もう少し保護者の理解を得られると良いと思う。 ●評価をさせていただくにあたり、生徒さんの授業の変化を毎回見ているのではないので、先生方・生徒・保護者の皆様の評価を大切にしたいと考えます。 ●コロナ禍の中での教育活動は大変だと思いますが、授業公開では電子黒板やタブレットなど使った取組が行われていました。 ●ビジョンとして掲げている「居心地の良い学校」は校長先生も度々口にしており、我々保護者にも浸透している。他の活動にもこのビジョンに基づいていると考えられ、一貫性が感じられる。このまま、継続して頂きたい。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3					B	1	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4					C	0	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3					D	0	
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	○生徒、保護者、教職員アンケートによる学習に関連する項目での、肯定的な回答の割合	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	3	・学習カルテや授業改善プランを活用し、授業に生かすとともに、面談を通じて、生徒や家庭と課題について共通理解を図った。 ・夏季補習教室の他、放課後補習を毎日実施し、個々の質問や勉強の悩み等に対応した。 ・年6回の「土曜補習」を実施し、1日あたり平均24名の参加状況である。定期考査前には熱心に参加する傾向がある。 ・基礎学力の定着が不十分であることより、授業と家庭学習を繋げる取り組みとして、家庭学習ノートを行っている。また、家庭学習の一手段として、毎日のタブレットの持ち帰りと学習コンテンツを行わせた。 ・昨年度に続き基礎学力の定着と達成感の醸成のため、学期ごとの国数英のコンテストを実施した。成績優秀で表彰される生徒が多い。	A	3	●一人ひとりの対応は先生方の負担になっているとは思いますが、良く対応していると思います。 ●先生方は生徒の学力向上のために、実に良く工夫されていると思います。 ●結果はすぐに出ないかもしれないが、学力は地域の幼稚園・保育園・小学校での教育も大きく絡むので、長い目で見ていくべき。「この地域なら大森東」と言われるように頑張って欲しい。 ●大森東中は、大田区28校中で中間ぐらいと聞いています。最近では学力も上がっていると思いますので、学力向上を目指して欲しいと考えます。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	4					B	4	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4					C	0	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4					D	0	
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	○生徒、保護者、教職員アンケートによる学校生活やその満足度に関連する項目での、肯定的な回答の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	4	・小学校との情報交換を密にとり、生徒が抱える諸問題への対応では早期発見・早期対応を念頭に、SCの1年生全員面接やSCとの連携を密にするとともに、ハイパーQU調査や学校生活調査、いじめ調査をもとに面談を行う等、全校体制で対応した。 ・全クラスで道徳の研究授業を実施し、道徳授業の充実を図った。また、タブッレトを用いての発言や意見交換などを行う道徳授業も行っている。 ・今年度から校内委員会を毎週実施し、特別な支援が必要な生徒の情報共有や対応の検討を行った。またスクールカウンセラーが週3日勤務し、不登校生徒の対応や別室登校への支援を行うとともに、教育相談も行っている。別室登校においては、時間割を組み教員が各教科の補習を指導している。	A	5	●私の子ども3人も育ててもらった大森東中学校は、地域の宝でもありますし、母校です。更に発展してもらいたいです。 ●今のところ大きな問題は聞かないので、このまま良い状態をキープできるよう継続をお願いしたい。学校を訪問すると、子どもの方から大きな挨拶をされるのは大変素晴らしい。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3					B	2	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					C	0	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					D	0	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4							
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	○生徒、保護者、教職員アンケートによる健康や体力に関連する項目での、肯定的な回答の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	4	・体力向上や健康増進に向けて、食育を軸とした「早寝・早起き・朝ごはん」の取組を行った。今年度は更に充実させるため、栄養士や養護教諭と生徒会(保健委員会)が連携し、生徒への啓発を行った。 ・体育の授業においては、昨年に続き授業開始時の5分間走や体力増強運動、海浜公園での長距離走を実施し体力向上を図った。また、マラソン大会では、校長とともに全校朝練習を実施し、気運を高めた。 ・部活動では「バスケットボール部」「ソフトテニス部」が入賞し、「バスケットボール部は、都大会出場を果たした。	A	6	●長く続けているマラソン大会を今後もなくさず行って欲しい。 ●柔道やダンスなどの授業も安全に気をつけながら、個性を伸ばしているようにも思いました。 ●校長先生が先頭に立って早朝マラソンを行うのは非常に良い取組だと思う。 ●スポーツ部活動は、向上していると思います。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					B	1	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					C	0	
									D	0	
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	○生徒、保護者、教職員アンケートによる教育環境に関連する項目での、肯定的な回答の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	4	・悉皆研修だけでなく、研究発表会の研究・研修に参加や指導教諭の模範授業参観を促し、指導力の向上に努めた。 ・OJTとして「授業研究3回」「ICTを活用した指導方法の工夫」「アレルギー対応」を内容にした校内研修を実施してきた。また、今年度より教員に対しての全授業公開を打ち出し、OJTの充実を図っている。 ・今年度は新型コロナ感染症が落ち着き、ある程度校外研修ができたが、本校の課題である、基礎学力の定着と学力向上を図るため、更なる充実した研修を工夫していく。 ・今年度から校内委員会を毎週実施し、特別な支援が必要な生徒の情報共有や対応の検討を行った。	A	5	●登下校の生徒さんの表情が楽しそうだとこちらも嬉しくなり、遅く登校している子に会ったりすると「何かあったのかな？」「身体の調子が悪いのか？」と考えたりしています。 ●学歴が上にいくほど基礎の理解が重要になるので、今後も重点的に基礎の定着を目指して頂きたい。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3					B	2	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					C	0	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4					D	0	
プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	3	○生徒、保護者、教職員アンケートによる教育環境に関連する項目での、肯定的な回答の割合	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	3	・学校だより(月1回)、学年だより(週1回)、図書だより(月1回)、給食だより(月1回)、SCだより(学期1回)、学校HP(不定期)等々の方法で情報を発信してきた。また地域や近隣関係諸機関に学校便りを配布している。 ・運動会や濱端合唱祭やマラソン大会では、実施方法を工夫し、保護者参観の機会がもて、好評であった。 ・今年度は新型コロナ感染症対策のため、保護者の参観は行えたが、地域の方々の参観行事や学校公開が実施できなかった。また、職場体験は実施できたが、学校教育への地域力を生かすことやボランティア活動などの生徒が地域に参画する取組もできなかった。新たな生活様式のなかでの連携を画策していく必要がある。	A	5	●今年度もコロナのため、地域との連携は難しかったが、情報共有は行えたので、地域からも連携に行けるよう心掛けていきたい。 ●学校だより(濱端だより)には、有意義な文章が載っていて、生徒の成長に大いに寄与していると思います。 ●私たち連絡協議会にも学校側からの協力要請がありますと有り難いです。 ●学校公開には生徒さんの様子が良く分かるので、参加させていただきたいですし、部活動なども参観できれば有り難いです。 ●学校・校舎の外壁は、今後区が改修すると思いますが、早く直してもらえるよう地域でも要望したいと思います。 ●PTAとしても地域に公開するような場面では積極的に関わっていきたいと思う。コロナ禍において、他中学校と比べても劣る点は無いと考える。 ●今後、大森東中もコミュニティースクール活動に向けて、地域とオープンな連携が必要になると考えます。しかしながら、未だ形だけで、内容が分散してしまっている。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4					B	1	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。						C	1	
									D	0	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、○とコメントを記載す